各区のふるさと会紹介

頸城ふるさと会

頸城ふるさと会 会長　関根咲子

「頸城ふるさと会」は、関東に在住する旧頸城村の出身者によって、平成三年十月に結成されました。結成当初は会員数六百名、多くは終戦直後から昭和二十年代にかけて故郷を離れた人達でした。

従って、会員の高齢化や現役世代の多忙さ等から、その後の会の運営の殆んどを、旧頸城村の皆さんにお世話にならざるを得ませんでした。

旧頸城村が上越市と合併、頸城村が閉村することになって、今後の頸城ふるさと会の運営ができるのかなど、会の存続について協議が行われました。アンケートを実施した結果、存続を希望する会員によって自立、継続が決定したのです。現在の会員数は二百名ですが、旧頸城村を軸として強い絆で結ばれています。

役員会は年七～八会開催し、活動の企画や会の運営、会報の作成・発行、会員名簿の管理などを行っています。年会費は千円で年二回、会報を発行し会員に郵送しています。

昨年は、旧く頸城村に唯一存続する「ユートピアくびき振興財団」に団体加盟し、頸城区の情報収集、まちづくり振興への協力など、相互の連携の体制も整いました。

本年度の定例総会は十月二十二日に開催、結成十五周年を機に名誉会員として、書道家の宮本沙海氏、東京医科歯科大学脳神経病態学教授の水澤英洋氏（共に会員）を選出。宮本氏には秋の展覧会に出品予定の水墨画のご披露と解説を、水澤氏には医師の立場から、高齢化と健康についての講演を頂きました。

また、本年度の活動としては、従来も取り組んできた「日帰りバス旅行」を、さらに充実した会員の交流事業と、地域の振興発展をテーマとして、一泊二日の「ふるさと訪問旅行」として実施することになりました。

新生ふるさと会の最大の課題は、会員の増強にあります。そのためには、頸城ふるさと会を単なる親睦の会としてではなく、会員の高齢化、健康、生き甲斐、情報の収集・発信をテーマとして、会員が切磋琢磨するとともに、ふるさと上越市並びに頸城区の発展に寄与できる会として、その存在意義を追及していかなければなりません。

Ｊネットの皆さん、今後とも連携を強化して、お互いに新生上越市の発展のために頑張りましょう。

日帰りバス旅行（2005. 6. 1）

総会参加者による記念撮影